

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 健康栄養学科

名 前 中村悟子

作成日 2023年9月28日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

本学における公衆栄養学領域を担当する者として、机上の空論にならないよう、自らが地域連携の懸け橋になるような取り組みを行っている。具体的には、白岡市との地域連携を目指した実績作りのため、白岡市の地域包括支援センター（ウエルシアハウス）にて介護予防事業の連携を図っている。現在、月に1回程度、地域包括支援センターにて行われている事業に参加し、高齢者の食事作りイベントのサポートを行っている。今後、ウエルシアハウスと連携して地域在住高齢者にインタビュー調査を行うことが決定しており、これにより、食事サポートのニーズ調査を行い、ニーズに合った栄養サポート事業を展開する予定である。これらの活動は地域住民の健康の維持増進に貢献していると考えている。

授業においては、公衆栄養学領域の重要性、必要性を理解してもらえよう、疾病に関する具体的なデータや、国や都道府県にて公開している情報を教科書で扱うテーマとともに教示している。

2. 理念（教育に対する考え方）

本学のディプロマポリシーの中の「現実社会をよりよく生きるための洞察力、共感力、創造性、表現力」を高めるため、実習では得られたデータからどのようなことが読み取れるかを掘り下げ、グループ内で共有する時間を設けている。洞察力、共感力、創造性、表現力といった力は一朝一夕で身につくものではないため、授業内で少しでも多くその練習が取れるよう授業を組み立てている。また、同じく本学ディプロマポリシーの中の自己教育力、生涯学ぼうとする力は特に重要だと考えており、社会に出ても学び続けるための土台作りを大学在学中に学生自身に着けてもらうことを重要視している。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

重要な基礎をしっかりと組めるように復習しやすい資料づくりを心がけている。具体的には、配布資料には教科書の該当のページを記載し、復習の際に教科書を読みながら復習できるようにすること、授業動画を録画し、希望者は授業後にいつでも閲覧できるようにしている。また、現場で使われている資料、厚生労働省等が公開している資料を配布し、教科書には載っていない部分を補いながら授業を行っている。

実習においては、学生自身がどこまでできていて何をさらに探求したらよいかを常に伝えるよう意識している。提出されたレポートには必ずコメントをつけ、学生に、レポートから判断できる事柄（どのようなことができているのか、改善のポイント）を直接伝えながら返却している。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

前期授業評価において、使用した教材や配布資料がわかりやすかったですかという問いに対し、約7割の学生が、「強くそう思う」「そう思う」と回答した。また、教員は理解させようとする意欲・熱意を持って授業に取り組んでいましたかという問いに対しては7～8割の学生が「強くそう思う」「そう思う」と回答した。

授業中メモをとったり、授業後に質問に来たりする学生も毎回のようにいるため、まじめに取り組んでいる学生が多いと感じている。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

個人で授業を受け持っている2年生、3年生、4年生の目標を示す。

2年生

中短期目標：地域集団の健康水準を高める栄養施策の構造を学び実践力を身につける。

達成時期：2年生1月（公衆栄養学Ⅰ・Ⅱが修了した頃）

3年生

中短期目標：地域集団の健康・栄養問題を評価分析し、目標達成のための改善プログラムを立案し実践する能力を身につける。また、集団の中の個人の健康・栄養問題に応じた公衆栄養プログラムを計画する。

達成時期：3年生1月（公衆栄養学実習、地域栄養学演習が修了した頃）

4年生

中短期目標：公衆栄養学を総合的に理解し、他の科目との関連性を深める。管理栄養士として働くうえで必要な知識、技術を活用できるようになる。

達成時期：4年生2月（国家試験受験前までに）

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。）